文部科学省

R6.5.2　戦略的調査分析機能に関する有識者懇談会（第１回）
資料２

戦略的調査分析機能に関する現状と課題について

２０２４年 5月2日

科学技術・学術政策局研究開発戦略課

現状と課題について

STI政策を取り巻く国内外の状況変化

- **先端研究の進展速度の増大、波及範囲の広範化**
- **地政学的な状況の変化**
- **Trust in Science, Public Engagement を巡る議論**
- **少子化・人口減少**　（「拡大･成長」から「持続可能」へ）
- **EBPM の手法を活用した政策形成の強化**　　**等**

我が国のSTI政策の検討・策定に係る課題

- **後追い型・波乗り型の対応が多い**
- **優先順位付けや分野を超えた対応が十分に出来ていない**
- **施策の効果・有効性、ポートフォリオの適切性を十分に示すことが出来ていない**
- **状況変化への機動的・迅速な対応が十分に出来ていない**　　**等**

欧米主要国における状況

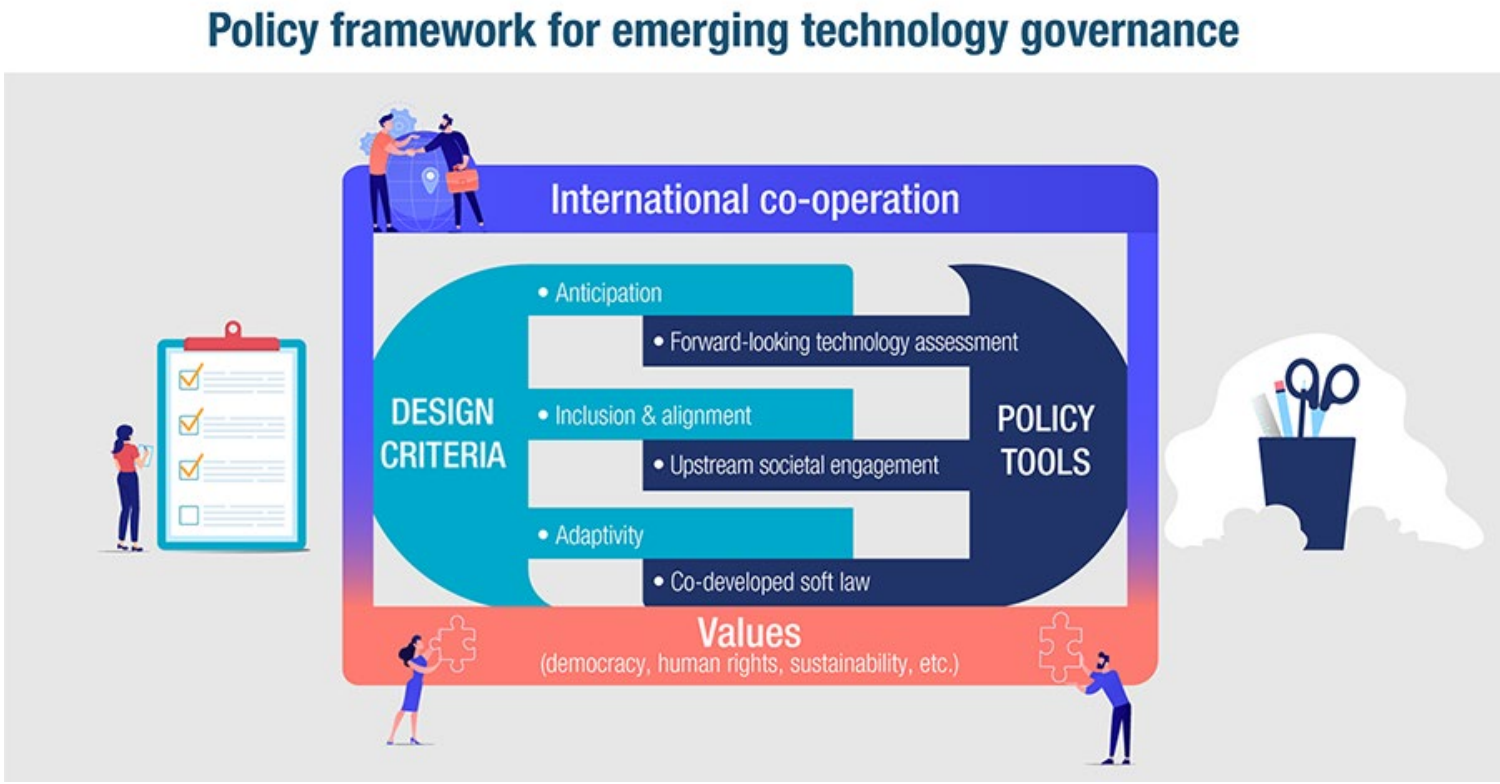
将来を見通しながら重要科学技術への戦略的かつアジャイルな研究開発投資を行えるよう、リアルタイムの科学技術動向(兆し)の把握、分野を超えた取組み(convergence)の分析、 将来インパクトの評価、優先度判定基準の策定等のエビデンスベースの分析機能の強化や、プロセス･体制の構築に向けた検討や試行的な取組を加速

参考

OECD STI Outlook 2023

(報告書抜粋)

the current knowledge and evidence base that supports policy decisions, such as evaluation and statistics, struggles to cope with the complexity and uncertainty of STI-enabled sustainability transitions. **Governments need to invest in their "strategic intelligence" capabilities to monitor and evaluate sociotechnical transitions, and to formulate, design and implement effective STI policy agendas and measures.**



https://www.oecd.org/sti/science-technology-innovation-outlook/

主な検討の視点 （議論のためのたたき台）

戦略的調査分析(Strategic Intelligence)機能の在り方

・迅速性・随時性・連続性
・国別・地域別戦略
・ステークホルダー(政策立案者、FA、研究機関、大学、学会、研究者)との認識共有の仕組みの構築
・“Broad & Sharp”（全体傾向だけでなく、必要に応じて、機関レベル、個人レベルでの状況把握）　等

新興技術の把握や優先順位付けのための仕組みの開発・実装の在り方

・科学技術情報に基づくホライズン・スキャニング等を通じた早期の予兆(weak signals)の把握
・ポートフォリオ分析や、ベンチマーク分析、最先端研究者の追跡／モニタリング分析等
・社会・経済的インパクトや政策ニーズに照らした優先順位付けやシナリオ分析の仕組み
・これらを連続的に分析し、施策に反映させる仕組み
・意思決定やガバナンスの仕組み
・ステークホルダーとの情報・相場観を共有する場・機会　　等

新興技術ガバナンスを含む科技イノベ政策※の立案を支える基盤の在り方

・統計・データ基盤の強化
・研究活動の定量的・科学的分析手法の開発(Research on Research)
・政策間の相互作用やインパクトの分析手法の開発
・政策科学人材の厚さ・流動性　　等

※科技イノベ政策の例：
- ガバナンス体制整備、ルール作り
- 責任ある研究開発、コミュニケーション
- ファンディングや評価のあり方
- 人材確保、育成
- 研究インテグリティ・セキュリティ
- オープンアクセス対応
- スタートアップ政策
- 国際戦略